

スーパーマンの孤独——《孤独はいつも黄金色》

望月 苑巳

スーパーマンといえばヒーローの元祖だ
誰が何と言おうともぼくのヒーローだった
空がとべたらいいな
凄い力持ちだったらしいな
不死身だったらしいな
そんな願いを叶えてくれたから
ヒーローだったんだ

飛べないスーパーマンに向かって
子供たちは「飛べ！飛べ！飛べ！」と叫ぶ
こぶしを振り上げ叫んでいる
そこでヒーローは仕方なく苦笑い
それから

泣き顔になる

「どうしてスーパーマンが泣くの？」
そして今度は子供たちが泣き出す番だ
針金で吊られていたヒーロー
真実はそんなもんさ

悲劇と喜劇は背中合わせ
戦争と平和が隣り合わせと同じように
それに気付かない人たちが
大人になって戦争を始める
こぶしを振り上げて
ヒーローはいつだって悲しいものだ
真実という器には
いつも孤独だけが
チャプチャプと注がれている